

カンガルーシップ活動 共生プロジェクト 実施報告書

報告日	平成30年2月23日
主管学校名	宮城教育大学附属幼稚園
P T A会長名	曳地 久美 (幼稚園)

実施概要	主管校	宮城教育大学附属幼稚園
	交流校	宮城教育大学附属特別支援学校
	実施活動名	宮城教育大学附属特別支援学校生徒と園児の交流会
	実施日時	平成29年12月6日(水), 平成30年2月21日(水)
	実施場所	宮城教育大学附属特別支援学校, 宮城教育大学附属幼稚園
	実施目的	特別支援学校生徒と園児が交流することで, 親しみを持つ。
	実施内容	12月に特別支援学校生徒に卒園記念品製作を依頼し, 2月に完成した記念品の贈呈式と交流会を行う。
実施方法	①12月6日(水)「園児特別支援学校訪問・交流会」を実施した。幼稚園年長児がバスで30分の場所にある特別支援学校を訪問した。木工作業を見学し, 卒園記念品製作を依頼し, その後, 交流会を行った。 ②2月21日(水)「支援学校生徒と園児の交流会」を実施した。バスで片道30分かかり来園し, 卒園記念品贈呈式, 及び交流会を実施した。	
参加人数	幼稚園年長児40名, 支援学校高等部生徒25名, 幼稚園・支援学校保護者14名, 幼稚園・支援学校教諭11名	

報告事項	内容	①12月に幼稚園年長児が特別支援学校を訪問し, 高等部生徒の木工作業を見学した。その際, 園児より生徒へ卒園記念品(ペン立て付きフォトフレーム)製作を依頼した。園児は一人ずつ, フォトフレームに描いてもらうステンシル型の希望を三種類の中から一つ選び, 生徒に伝えた。生徒は希望を漏れなく記録し, 約二ヶ月かけ記念品製作を行った。その後, 体育館にて交流会を行い, 生徒と園児が数名ずつのグループになり, 一緒にゲームを楽しんだ。 ②2月に特別支援学校高等部生徒が幼稚園に来園した。その際, 12月に依頼を受け, 完成した卒園記念品を持参した。生徒たちは製作過程を園児たちに分かりやすく伝えるため, 電子黒板を使用し, 写真やひらがなを用いて説明を行った。園児はお礼の意味を込め全員で歌を歌い, 数名ずつのグループで「コマ回し」「ダンス」「長なわとび」等の好きな遊びを披露した。その後, 卒園記念品贈呈式を実施し, 園児たちは直接手渡しで記念品を受け取り, お礼を伝えた。最後に, 園児も生徒も自由に, 園舎内や園庭等, 各々好きな場所で, 上記の好きな遊びの他, キーボードの演奏や鬼ごっこ, ブランコ, 短なわとびといった遊びを一緒に行いながら交流を行った。保護者は, その様子を邪魔にならないよう見学しつつ, サポートが必要な際は手助けを行った。
	結果	園児たちは高等部生徒に対し, 卒園記念品を製作し, 届けてくれた, という尊敬の念と共に, 『一緒に遊んでくれるお兄さん, お姉さん』という感謝の気持ちを持って接していた。「ありがとう。」「凄いね!」という言葉が園児から多く聞こえていた。高等部生徒たちは, 注文を受けた作業作品を納品することで仕事に対する責任感や達成感を感じていた。「園児たちが選んだステンシルの型を間違えていなくて良かったです。」「園児達に喜んでもらえて嬉しかったです。」と感想を話していた。自由交流の際には, 自然に園児と生徒の入り混じったグループがいくつも作られ, お互いに声を掛け合い笑顔で遊んでいた。机上で「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育」を学習するよりも, 知らず知らずのうちに生きた学習が行われていた。
	所感	大人になってから, 机上の学習や講演会で「インクルーシブ教育」や「インクルーシブ社会」を意識したり, 学習することも大切である。一方, 小さい頃から, 当たり前, 自然な形でそれらが身につけていることは今後「共生社会」に出ていく上では重要だと感じた。だからこそ, 子どもたちにはこの交流会のような体験を継続して行ってほしいと親として願う。今年度もカンガルーシップ助成金事業により, 良い学びの機会となった有意義な活動と交流ができたことに感謝いたします。本当にありがとうございました。

添付書類	活動記録写真1枚, 参加者感想(保護者)1枚, 参加者感想(高等部生徒・幼稚園児)1枚, 収支決算書1枚, 領収書添付シート1枚: 合計6枚(本紙含む)
------	--

カンガルーシップ活動

共生プロジェクト 活動記録写真

報告日	平成30年2月23日
主管学校名	宮城教育大学附属幼稚園
PTA会長名	曳地 久美（幼稚園）



園児から支援学校生徒さんへ歌の贈り物



一人ひとりに卒園記念品贈呈



記念品に興味津々な園児達



卒園記念品『ペン立て付き写真立て』
(ペン立ての左下にステンシルが入っている)



電子黒板での製作過程の説明



自由交流（なわとび）



自由交流（キーボード演奏）



自由交流（鬼ごっこ）

活動記録写真

カンガルーシップ活動 共生プロジェクト参加感想

提出日	平成30年2月23日
学校名	宮城教育大学附属幼稚園
学年	宮城教育大学附属特別支援学校高等部・年長園児

【幼稚園児】

- ・自分だけのペン立てができて、とても嬉しいです。
- ・小学生になったら使うように、家の机に置きたいです。
- ・自分で決めた模様（ステンシル型）を覚えていてくれて、凄いと思いました。
- ・難しい（作業の）写真があったけれど、ちゃんと作ってくれたお兄さんたちはプロだと思いました。
- ・写真立てがすごく上手だと思いました。ありがとうございました。
- ・写真立ての作り方を聞いて、難しそうだと思いました。
- ・コマ回しをする時、緊張したけれど、拍手をしてもらって嬉しかったです。
- ・前に特別支援学校に行った時に、一緒に遊んでくれたお兄さんとお姉さんとまた遊べて楽しかったです。
- ・もっと長い時間、遊びたかったです。

【高等部生徒】

- ・思っていた以上に、園児たちが喜んでくれて、自分たちも嬉しかったです。
- ・焼き印を押すところが、難しかったです。
- ・作っている間は大変でしたが、皆が喜んでくれて良かったです。
- ・ダンスや歌がとても上手でした。
- ・「ありがとう。」と言ってもらって嬉しかったです。
- ・（ステンシル型を）間違えていなくて良かったです。
- ・この前（12月の交流会）は短時間しか遊べなかったけれど、今日（2月の交流会）は少し長く遊べました。
- ・園児たちが、自分たちのことを覚えていてくれて嬉しかったです。さようならをする時に、とても悲しかったです。
- ・卒園製作品を作っていて、難しい部分もありました。ステンシルも喜んでもらって、私たちも嬉しかったです。

カンガルーシップ活動

共生プロジェクト参加感想

提出日 平成30年2月23日

学校名 宮城教育大学附属幼稚園

・最初は、お互いちょっと緊張の面持ちで始まった交流会。園児たちの歌でスタートしました。すると生徒さんたちは、早選手拍子やダンスで共感を表現してくれました。続いて、こま回し、ダンス、長縄跳びを披露しました。この日のために一所懸命に取り組んできた一つ一つの発表に、お兄さん、お姉さんからの拍手を受け、園児たちの顔は、とても輝いていました。そしていよいよ、卒園記念品の受け渡しです。お兄さん、お姉さんのリードの下、グループごとに輪になり、製作過程や、工夫した点をお話ししていただきました。きれいに押された焼印の附属マークに感心していると、生徒さんから「一番苦労した部分です。」とのお話がありました。生徒さんが習得した技術と、込められた思いが見事に反映された素晴らしい作品を受け取った園児たち。みんな本当にうれしそう。「ありがとう」の言葉もしっかりと伝えることができました。園児たちの気持ちを受けた生徒さんたちのお顔からは、製作者としての誇りを感じました。その後の遊びの時間は、時間が足りないと思うほど楽しそうでした。お姉さんのピアノに合わせて園児も一緒に歌ったり、園児の説明を真剣に聞いてくれたお兄さんとこま回しを一緒に成功させたり、外では、泥んこをものともせず、鬼ごっこで一緒に走り回ったり、園児のペースに合わせたお兄さんの掛け声と一緒に縄跳びをしたり…。互いに思いやっている場面がたくさん見られ、とても温かい気持ちになりました。そして、あっという間にお見送りの時間。もうすっかり打ち解けたので、本当に名残惜しそう。大きく手を振って見送る園児たちに、お兄さん、お姉さんから「また会いましょう！」という声が届けられました。年齢や環境の違いを超えて、同じ空間で一緒に時間を過ごすことで、共に充実した学びを得られたのではないかと思います。子どもたちが、このような体験を通して、あらゆる人々と手を取り合って仲良くなれる人になってくれたらいいです。さて、来年は我が子の卒園。どのような作品、そして交流に接することができるのでしょうか？楽しみにしつつ、この意義深い会が続いていくことを切に願います。附属校園ならではの素敵なお縁を大切にしていきたいと思います。笑顔がいっぱいのこの会に参加させていただき、ありがとうございました。

・この度の交流会は園児たちが支援学校高等部の生徒さんたちをお迎えするという形だったこともあり、最初は園児たちの表情が緊張したような面持ちでしたが、園児たちの楽しい歌の発表でお兄さん、お姉さんとの距離が縮まり楽しく始まることができました。続いて、園児たちの「コマまわし」「ダンス」「縄跳び」の発表があり、次に高等部の生徒さんから記念品の製作工程をスライドで説明していただきました。

今年度の卒園記念品は「ペン立てフォトフレーム」です。一人一人お願いしてあった絵がステンシルであしらわれた記念品を高等部の生徒さんに手渡され、園児たちはとても喜んでいました。自由時間には、一緒にコマまわしや、寒い中園庭で鬼ごっこ、ブランコで遊んでいただき本当に楽しい時間を過ごすことができましたようです。

この日のために時間をかけて卒園記念品を製作して下さった高等部の生徒さんと、精一杯の感謝の気持ちを伝えようとする園児たちの短いながらも素敵な交流の時間を共有できたことに感謝申し上げます。

インクルーシブ教育、ESDと様々な取り組みをしている附属校園ならではの交流会。全ては子どもたちの未来へつながるはずです。このカンガルーシップ活動は継続していくことが大切だと実感できた素敵な会でした。

・初めて同席させて頂いたカンガルー交流会でしたが、外の雪景色とは裏腹に心温まる時間となりました。

最初、園児たちは、お客様をお迎えするワクワク感といつもとは違う雰囲気への緊張を感じているように見受けられました。しかし、会が始まると、生徒さんは園児の歌声やダンスに微笑みながら手拍子や体を揺らしてくれたり、あっという間に会場には笑顔や拍手が増えていきました。

そして、名前を呼ばれ記念品を受け取った時の嬉しい表情からは、この日を楽しみに待っていたことがうかがえました。記念品を隅々までじっくりと見て、記念品に刻まれた「FUZOKU」という文字を見つけ、園児「これ何て書いてあるの？」生徒さん「ふぞくって書いてあるんだよ」園児「へーすごい、英語だね！」作り手から直接受け取るからこそ素敵な会話でした。

このように「相手を思いながら作り、作り手を思い浮かべながら使う」日常では出来そうで出来ない、附属校園ならではの貴重な体験だと思います。この思い出は、記念品と同じようにいつまでも心に残ることでしょう。

遊びの時間では、雪の残る園庭で、園児から追いかけてこをせがまれると嫌な顔せず追いかけてくれた生徒さん。ペランダで一緒に縄跳び対決をしてくれた生徒さん。遊戯室で園児からコマを教わり何度も挑戦してくれた生徒さん。いつも以上に幼稚園が笑顔で溢れていました。生徒さんと園児たちとの関わり合いを目の当たりにし、目を見て話し一緒に笑い時間を共有する事こそ、お互いを理解する事だと教わった気がします。生徒さんが見えなくなるまで、両手を広げ「バイバイ」と全身を使って言っていた園児たちの姿が印象的でした。

今回このような温かい交流会に参加させて頂き、ありがとうございました。これからも素敵な交流が続きますよう切に願っております。